

2016年
2月
No.208

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24

さざなみネット
(金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
TEL・FAX 077-545-5154

近畿地協2016春闘学習会

賃上げ実現！労働法制改悪阻止！希望を持てる社会の実現を！

2月13日から14日にかけて、京都のホテル本能寺で、近畿地協2016春闘学習会が開催され、九州・北陸・東海のなかまも含め29人が参加しました。さざなみネットから山崎書記長が参加しました。

学習会は下右欄の日程とおりに行われました。

岡野議長は「日銀がマイナス金利を決定し、経済は波乱続きで混乱している。職場では住宅ローン金利の引き下げ要求が相次ぎ、まさに金利だけのつきあいになってきている。またITやネット銀行の利用が増えている。私たちは、地域に寄り添った金融機関の役割を重視し、その考えを提言していくことが大切になってきている。

長時間労働を野放しにする労働法制改悪、パワハラ根絶、望まない非正規をつくらぬよう監視していこう。自分の意見を持つことが大事になっている。そのためには『学習』が大切。2日間、大いに学んでほしい」とあいさつしました。

続いて、全労連雇用・労働法制局長の伊藤圭一氏が「16春闘をめぐる情勢」と題し、スクリーンを使って豊富な資料をもとに講演されました。

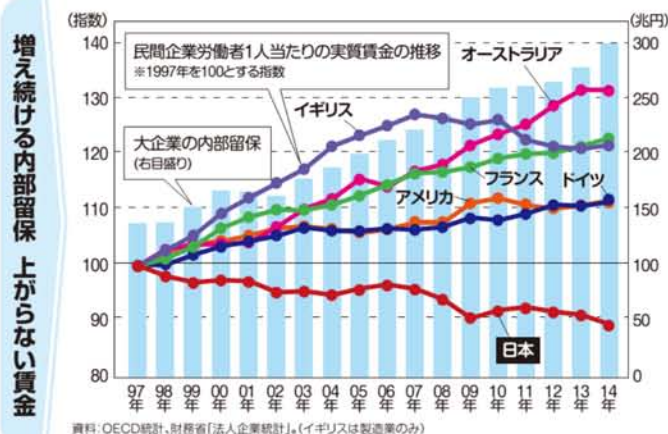
「リーマンショックの時に、賃上げ要求を自粛したのは、日本だけ。リーマンショックをぶっ飛ばそうと諸外国の労働組合はたたかってきた。そ



岡野議長があいさつ

の結果、リーマンショック以降、日本だけ賃金さがり国になってしまい、もはや大幅賃上げをしなければ、日本経済が立ち行かなくなるところまで来ている。一方、大企業の内部留保は急増しており、その社会的還元が重要課題になっている。」

(下図) 「正規労働者と同じ仕事(次頁下欄へ)



息吹 岩波 美智子さん 画

2016年春闘学習会日程

- 13日(土)**
- ・開会・議長挨拶
 - ・講演「16春闘をめぐる情勢」
講師 伊藤圭一(全労連雇用)
 - ・特別報告
「不利益変更とのたたかい」
(京都北都信金従組の仲間)
 - ・労働法制局長
「公益通報者」への懲戒解雇
(武生信金職組の仲間)
 - 「試用期間延長・満了」解雇
(大同信組の仲間)
 - 「パワハラによる心の病での休職期間満了」
解雇(大阪シティ信金の仲間)
- 14日(日)**
- ・問題提起・分散会・夕食交流会
 - ・分散会・全体会議・閉会



戦争法廃止へ 野党は共闘

「市民の会しが」結成

「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民の会しが」が、2月20日、草津アマカホールで結成されました。結成集会には、雨の中、ママたちや若者、大学人、宗教者ら、会場いっぱいの約300人で熱気にあふれました。

夏の参議院選に向け、19日の5野党の合意に続く滋賀での「会」結成に、「危機は希望を生む」と喜びの声が出ていました。

「市民の会しが」は、①安全保障関連法（戦争法）の廃止、②立憲主義の回復、③個人の尊厳を大切に政治の実現を目的に、夏の参院選とその後の国政選挙で、滋賀での野党共闘を実現し、目的3点に合意する統一候補の擁立のため、政党間の調整・協議を強く求める市民のネットワークです。

結成集会では、「くらしとせいじカフェ」の玉崎洋子さんが「戦争のない平和で安心して暮らせる未来を一緒に」と結成宣言。玉木昌美弁護士が、安保法制の危険性などを講演した後、5人がリリーススピーチ。農家の木村裕則さんは「この動きをもっと強く」、絵本作家の市居みかさんは「本物の民主主義を」、「しーこぶ。」の塩見博子さんは「野党共闘、さらに後押しを」、滋賀大学教授の中野桂さんは「再び学生を戦場に送らない」、牧師の谷村徳幸さんは「『安全



ママたちのオープニングアクト

保障』は戦争への道」と語りました。

代表世話人の福井雅英さん（滋賀県立大学特任教授）は、「主権者の声と運動が野党の背中を押した。そこに希望を見ることができる」「みんなの力を集めて安倍政治を許さない大きな転換を」と述べ、「小林節講演会」（3月20日、米原公民館）、「野党共闘を求める県民集会」（4月9日、栗東芸術文化会館さきら）の成功、「会」の賛同・参加を広げること、街活動、「2000万署名」などを提起しました。

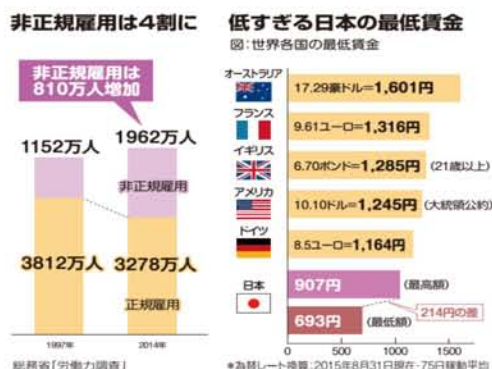
さざなみネットでも、2000万署名に取り組んでいます。ご協力をよろしくお願いします。

労働組合の責任は大 新しいエネルギーに確信を持ちがんばろう

（前頁から）を2分の1から3分の1の賃金で、雇用が不安定だから要求もできない労働者が既に4割にもなっている。その上、最低賃金が低すぎる」（グラフ下）「労働者が怒り、社会的波及力のある賃金闘争が必要」と今春闘の重要性を強く訴えられました。

また、労働法制を改悪しようという政府・財界の狙いは「低コスト・使用者の都合で使える労働力とモノ言えぬ労働者づくりにある」、これを許したら、さらに大変な状態になる。労働組合の責任は大きい。この1年間、日本でも戦争法廃止に向けて労働者や市民が国会周辺はもとより、全国各地でたたか

いたかきに立ち上っており、この新しいエネルギーに確信を持ち共にがんば



ばり、希望の持てる社会を実現しよう、と訴えられました。

分科会での職場の声

- 不祥事件の防止と称して、個人のプライバシーにまで踏み込んだ調査が行われている。
- ストレスチェックが始まったが、情報が社内には知られるのではないかと不安である。
- 今の賃金では、こずかいや交際費をどんどん減らさざるを得ない。
- 長時間労働でメンタル不全になっている仲間が多い。問題意識をもつことが大事だ。
- 休日出勤の振り替え休日が取れず、ユウレイ出勤をさせられている。
- 今の経営には、人を育てるといことがない。これでは、生きがいがない。



伊藤圭一氏が講演